

地域密着型サービス自己評価票

- ・ 指定小規模多機能型居宅介護
(指定介護予防小規模多機能型居宅介護)
- ・ 指定認知症対応型共同生活介護
(指定介護予防認知症対応型共同生活介護)

(よりよい事業所を目指して・・・)

記入年月日	平成 19 年 12 月 10 日
事業所名	グループホームチアフル音明かり
事業所番号	2372201109
記入者名	職名 氏名 野田 絵美
連絡先電話番号	0 5 8 6 — 8 6 — 8 5 1 2

(様式1)

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	○	普段の生活で、業務や時間に追われている際はスタッフ間の意識が低下しているので余裕を持ち利用者に関われるよう努めると共に一人ひとりの意識を高めていく。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	○	買い物や外出の際にも、地域の方に挨拶や会話など出来るように取り組んでいく。ご家族には、気軽にたち寄っていただけるよう開かれた場所にしていくと共に意見なども取り入れていき改善したい。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	○	隣近所の方からも気軽に話しかけて頂けるような雰囲気作りをしていきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	今後も、積極的に地域行事に参加をしていき地域住民の方々との交流を深めていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域推進委員会を開き事業所での取り組みを理解いただき、意見等参考にしながら取り組んでいる。また、実習生の受け入れを行い学習の場として経験をつんでもらっている。	○	管理者や職員は積極的に講習会や研修に参加しており今後はホーム内での勉強会等の機会を設け全職員が常に学べる機会を増やしていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を行い、日々の業務内容を見直すきっかけとなっている。評価を行うことで、どこを改善していけばいいか課題を見つけ出すことが出来る。	○	改善していかなければならない点を職員と話し合い課題にして今後改善していくように取り組んでいく。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	地域運営推進会議では、包括支援センター・地域の代表など参加している。また、家族にも参加してもらい活動状況や各ユニットの取り組みなど報告し意見をいただいている。	○	管理者・各ユニットのリーダーだけでなく職員が地域推進会議で話しあった内容を知らせると共に会議に参加できるようにしていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者が主に市町村との連携に取り組んでいる。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修や勉強会を通して理解を深めている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員同士・意見等ミーティング時に話しあったり、虐待についての勉強会を行っている。	○	虐待についての一人ひとりの意見や考えが異なる為、日々業務等を見つめ直す機会を定期的に行っている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	○	言葉の訴えだけでなく態度の変化にも気付き、対応できるよう努めたい。
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>		
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	○	申し送りノートに記入やミーティング時に家族からの意見や変化を職員が全員把握できる情報を共有している。
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	○	他ユニットとの間で応援をしたり、されたりとシフトを組んでいる。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職の前に、業務や引継ぎをしっかりと行い他の職員がスムーズに行えるようにしている。また、利用者の影響を職員と話し合い対応している。	○	利用者が不安にならないよう職員が配慮をしている。また、離職のないよう働きやすい職場環境を作っている。
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会や講習会など参加できる機会が多くあり、希望者が優先的に参加している。また、研修後は報告書を書き他の職員も勉強できるように提出している。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の施設との関わりやグループホーム同士の交流を持ち関係作りを行っている。他の施設の見学等行い、参考にしている。	○	市内には、沢山の施設があるので交流を深めていき職員同士意見交換や勉強会も行っていきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	各ユニットでの定期的な親睦会があり、コミュニケーションを図っている。業務など、負担になっている時はフォローを入れながらストレスの軽減を図っている。	○	月1回ユニットでの面接を行い職員の悩みや訴えを聞いている。また、職員への声かけを多くしていき働きやすい職場作りに努めている。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	管理者が職員の状況や様子を把握して声かけや相談にのっている。また、一人ひとりに対して能力を活かせるよう工夫されている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用者の訴えはしっかりと傾聴し、すぐに対応できることは後回しにしないようする。また、訴えることのできない方に対しては、常時様子観察や雰囲気などで対応できるように努めている。利用者との信頼関係作りを行い安心して生活していただけるようにしている。	○	生活記録内の用紙に本人が言ったこと、スタッフが気づいたこと、家族が言ったことの欄を設けて記入している。職員の知り得た情報を他の職員にも分かるように情報を共有している。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	管理者が面接またはリーダーを含めて決めている。今までの生活等や求めていること、またご家族の不安を傾聴し、安心して入居いただけるよう十分な説明・見学を行っている。	○	初期の時期は、家族にも不安があるのでホームでの様子を詳しく話したり、どのようなことを求めているのか再度確認しながら家族との信頼関係を築いている。
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際に必ず管理者・リーダーに報告し今後の対応を本人・家族と一緒に考えて行き違のないように努めている。	○	家族や本人の想いを受け止め、よりよい支援をする為に職員での話し合いの機会を十分に持ち今度の対応をしていきたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人の様子や家族の意見を十分に聞き判断をしている。また、サービスを開始した後でも本人の様子をきちんと家族に説明し不安のないように努めている。利用者が他の方たちとコミュニケーションが図れるよう、職員が盛り上げ和まれるように努め興味のあること等を引き出していく。	○	本人・家族だけではなく他の利用者にも影響がある場合は職員が雰囲気作りに努めており、全体の様子をみていくようにしている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の生きてこられた人生に対し尊敬を持ち、常に介護をしている。喜怒哀楽を見逃さず次の介護に活かすなど、その人らしい生活が出来るように努めている。	○	料理や手芸・音楽など一人ひとり得意なものが異なるので、得意なものには積極的に参加していただきホーム内で必要な存在であると利用者自身が思える場面を多く作りたい。また日々の生活の中で職員も利用者から学ばせてもらっている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	昔の生活を聞いたり、介護で苦勞されてきたことなど傾聴し、支援への参考にしている。また、面会時に近況報告を必ず行い家族と話ながら支援を行っている。	○	ご家族が気軽に相談に来られる場としての雰囲気作りを目指していく。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会に来られる家族の回数はバラバラである。月1回の便りや手紙・電話等でこちらから働きかけを行っている。また、気軽に立ち寄れる雰囲気作りにも努めている。	○	夏祭りや運動会などの行事前には、利用者直筆の手紙を出し参加を促している。ご家族の参加率もよく、このような機会を年3、4回開催できたらと考えている。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方からの手紙や訪問を大切にしている。手紙の返事や電話での会話も支援している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係も良く、役割など協力して行っている場面もある。時には、職員が間に入る事で円満にいくことがあるなどその都度、対応を行っている。	○	向かいの建物には、2ユニットあるので交流を深めるなどして利用者同士が行き来出来るような関係作りを支援していきたい。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	家族より近況報告を受けたりと良い関係である。ユニットの面会での関わりに関しては最大の助言支援を行っている。	○	家族との信頼関係をしっかりと築き、サービスが終了する際には円満に行えるように日ごろの職員の姿勢が必要である。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意見を大切にし、家族とも話し合い検討している。職員は、利用者からの意向を聞き逃さないよう努めている。	○ 困難な場合、職員同士話し合いをしてどうしていくか検討したり、一緒に考える場を作りたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に、以前の生活歴や食べ物の好み、生活環境など用紙に記入していただき職員が把握できるようにしてある。また、本人や家族の話も参考としている。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	夜勤での様子、毎朝のバイタルチェック、日中の様子を申し送りや生活記録に記入し把握している。	○ 職員が3交代なので、申し送りを徹底させていき銘々がきちんと把握していく。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族や本人の訴えを参考にし、ミーティングの場で職員に意見を求め個々の介護計画を作成している。病歴等も把握し、本人に見合ったケアを支援している。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しを行い、どのように対応していくかケアマネジャーと職員と話し合い新しい計画を作成している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日勤・夜勤と分けて一日の流れに沿って経過を記録し、利用者の言葉や対応など記録。また、夜間は「21:00、0:00、3:00、6:00」の記録をしている。生活記録の記載の他に、口頭での申し送りや、申し送りノート、気づきのノートで情報を共有している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	今年度、小規模多機能ホームが開設され、利用者1名の介助が困難なため多機能への利用を行っている。	○	多機能を活かし、状況に合わせ利用するなどの支援も今後も行っていきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域資源を活かしながら、ボランティアの方々を始め多くの方に協力していただいている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	デイサービスの利用で、他のケアマネジャーとの話し合いを行い、どのような支援をしているか相談している。また、2ヶ月に1回移動理容がきている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議など、地域包括支援センターの職員にも参加していただいている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	通院に関して、家族や職員が同行している。また、月1回の往診があり体調管理などの指示を受けている。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知専門医はいない。職員が対応したり、必要であれば支援を考えていく。	○	認知症に対しての勉強会を定期的に行うなど職員も学ぶことが必要である。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員がいる為、必要であれば相談を受けながら健康管理をしている。また、不安定な状態の場合は病院受診の際に医師の指示を受けている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	退院に向けて、家族と話し合い早期に退院できるように努めている。医療機関と入院・退院に対して情報提供を行い連携をとっている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化してきている場合、早期に管理者に相談し家族や医師の意見を聞きながら今後の方針を決定していく。	○	家族に話すタイミングや今後の支援などまだまだ課題があるので職員、管理者と十分に話し合い取組んでいきたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	家族に、「できること・できないこと」を伝え、どのような支援をしていくか決める。また、かかりつけ医の意見を取り入れ支援していただいている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	家族や関係者、職員などと十分に話し合い本人に負担にならないよう最小限にする努力をしている。家族の想いは、バラバラで当日まで移動の話しを本人にはしなかった例もある。	○	環境が変わる事で、利用者が不安にならないよう移る際は臨機応変にお別れ会などをし動揺などないよう最小限に努めている。また、移動直後の利用者の表情や様子など把握し対応している。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の居室に入る際には、必ずノックや声かけを行っている。また、記録には個人名ではなくイニシャルで記入している。	○	職員の言葉かけや対応に疑問を感じた場合は、注意をするなど職員間で取り組んでいる。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の意向をよく傾聴し態度を観察してから説明してわかってもらえるようにしている。	○	個々の希望や要望に対して集団生活の中で困難なことも含まれている場合、可能な限り努力をしていくが無理な場合は納得してもらっている。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	好きなテレビ番組を見たい、外出したいとそれぞれの要望が異なるので、出勤職員は可能な限り優先しているが、出勤人数によっては無理なこともある。	○	一人ひとりのペースを大切に支援を行っている。時に、個々に対して支援を行うなど職員間で話し合っている。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	洋服は、本人の好きなものを着てもらっている。温度調節など出来ない方には、職員が声かけ等行っている。理容は、大半は移動理容室を利用し好みの髪型にってもらっている。また、昔から馴染みのお店がある方は行ってもらう。	○	外出時など、出かける際にはお化粧品やオシャレをして外出している。利用者本人の好みに合わせ一緒に行っている。こうした機会をもっと増やし充実した日々を送ってほしい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人の体調・病態を考慮しながらも満足して楽しんでもらうよう努力している。食事準備・後片付け等みんなで協力して行っている。食事中は、音楽をかけたり職員と利用者とはぐっくくつろげる時間なので大切にしている。	○	献立作りには、希望を聞き取り入れ、買い物をしたり、食事を作る場面を増やして毎日の食事を楽しんでもらうよう努めている。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	病気等の方には医師や家族と相談しながら満足していただけるよう努めている。お酒は晩酌時に提供し、タバコは吸う場所を決め自由に楽しんでいただいている。	○	おやつに関しては、カロリー制限のある方もみえるので満足できるような物を提供していきたい。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	気持ちよく排泄していただく為に、職員の声かけを工夫している。オムツ使用もトイレで排泄できるように誘導を行っている。また、排泄記録を残し体調の変化など知る情報としている。	○	気持ちよく排泄していただく為には、と職員間での話し合いを何回も行い今後も取り組んでいきたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日・時間等は決まっているが、希望者が入れば入浴可能である。また、夏期には清潔保持でシャワー浴など実施して快適に過ごしてもらう努力をしている。	○	水虫対策として、お風呂上りに専用のタオルを使用し予防している。また、手・足の爪や身体状態などチェックするなど取り組んでいる。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中散歩や体操を行い、生活のリズムを作れるようにしている。安眠につなげるために、利用者が安心して生活できるよう努めている。	○	夜間時、不穏に感じた場合は職員が傾聴し安心していただけるにしている。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事準備、後片付け、レクリエーションへの参加、習字・手芸・コーラス等の参加をすすめている。また個々の得意・不得意があるため配慮しながら支援している。	○	日中はなるべく居室で過ごされる時間を減らし、個々の楽しみを見つけだしたり利用者と共に楽しめるような取り組みを考えていく。


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	主に職員が金銭面の管理を行っているが、バザーや買い物など社会支援等も行っている。また、可能な方は小額を持ち買い物などで自分の好きなものを買えるようにしている。	○	お金に関しては、執着心がある方もみえるので配慮しながら行っている。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出する機会が多く最低でもランチや喫茶など週2回は外出するようにしている。外出の際は、利用者の意見も取り入れ計画している。なじみの場所や季節感を感じれる場所に行くようにしている。	○	外出する機会も多く、利用者の気分転換や楽しみにつながっている。利用者の体調なども配慮して今後も積極的に活動していきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	月1回の遠足があり、普段行けない場所や体験などを行っている。今年は、イチゴ狩り・水族館・尾張温泉等多方面に出かけている。	○	家族と共に墓参りや外出などされる利用者もあり、家族と一緒に過ごす時間を大切にしている。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に、電話する際は利用者の状況を報告したり可能ならば本人との会話を大切にしている。また、行事等の案内状や年賀状など本人に書いていただいている。家族は、利用者からの手紙等大変喜ばれており、今後も実施していく。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族や知人の方が訪問しやすい雰囲気を作るよう取り組んでいる。訪問された際には、職員の挨拶をかかさないうにしている。特に、面会時間は決まっていない。	○	信頼関係を日ごろから作り、何でも話しやすい雰囲気を作っている。また、定期的に意見を聞くなどして関係作りを実施していきたい。
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。身体拘束が必要であるならば、家族に同意書をいただくようにしている。	○	全職員で身体拘束の勉強会を実施し、行わないようにしている。定期的に勉強会を行うなど、意識を高めていく必要がある。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関や窓を施錠しないよう努めているが、職員が目の届かない時は安全性を考慮して施錠している。	○	本人の外に出て行きたいという訴えを尊重できるよう努めていき、安全も考えて行動できるよう職員が働きかけていく。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員間による情報交換を行い、本人のプライバシーに配慮している。また、様子などは配慮しながら確実に把握できるようにしている。夜間時も職員がおり、24時間安心して生活できるように支援している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	異食行為など誤って飲んだり、食べたりする注意が必要な利用者は現在いない。包丁は自発的に使う方は無く、使用する場合は職員が側で見守りを行っている。包丁は台所の引き出しに閉まっているが、危険なことはないため施錠は行っていない。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	職員間での気づきのノートにヒヤリハットを記載し、話し合いや対策を考えている。また、火災や行方不明の緊急対策は職員は把握し対応できるようにしている。	○	転倒や窒息など起こってしまったら事故報告書など記入し、職員の再発の予防を行っている。また、研修に参加し知識を得ている。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	応急手当の講習会が開かれ職員、パートが参加し訓練している。また、研修にも積極的に参加し勉強している。	○	新しい職員が入るたびに勉強会を開いたり、定期的な講習会を開くことにより再度職員の確認・意識を高めていく必要がある。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練を定期的に行い避難経路の確認をおこなっている。また、様々な状況を考えや夜間時や外出時などの取り組みもおこなっている。最低限の食料や水を確保してある。	○	定期的に行うことで利用者、職員に災害の危険性や避難経路を徹底させるように努めている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	起こりうる危険に対し、職員が把握し家族に説明し対応していく。家族・本人の意見を尊重し考えていく。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	利用者の体調の変化を見逃さず職員は記録や申し送りをし、対応している。必要であれば、医療機関に受診・相談を行い早急に対応できるようにしている。	○	職員の申し送りの徹底や、医療機関やかかりつけ医など日ごろから確認をしておく。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬はウォールポケットに1回ずつ入れて管理している。薬剤情報は個人ファイルに閉じてあり職員が確認できるようにしてある。	○	薬を変更した際には、申し送りノートや口頭にて知らせ職員が把握している。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎朝、ヨーグルトを食べている。散歩や運動なども行い体を動かしている。トイレ誘導時、お腹のマッサージや便秘気味の方には食べ物を気をつけている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	職員管理で義歯の手入れや歯磨きをする方には脱衣所の洗面所にて行っている。義歯は每晚洗淨剤を使用。毎食後の口腔ケアに取り組んでいる。	○	自分で出来る利用者の口腔チェックも行えるようにしたい。また、歯磨きの指導にも取り組んでいきたい。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量を一覧にして記入している。食事量・水分補給量の記入を行い、状態変化時は食事形状を変化させ食事量・水分量の摂取に配慮している。また、毎月はじめに体重測定を行い管理を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	外出から帰ると全員手洗い・うがいを行っている。また、入浴のタオルを別にして使用している。食器の消毒を定期的に行っている。結核・ウィルス肝炎・0157・ノロウイルス・インフルエンザ・誤嚥性肺炎などのマニュアルがある。	○	感染症に対する勉強会などを開き知識を高めている。身近なところに置いておき、すぐに対応できるようにしている。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	消毒マニュアルがあり、毎日食器類の消毒を行っている。台所等、清潔保持を心がけている。また、食材は安全なものを選ぶよう買い物時に気をつけている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前や玄関周辺は季節感があるものを飾っている。また、利用者の作品を掲示したり家族とのコミュニケーションに繋がっている。	○	家族からの反応もよく今後も親しみやすい空間作りをおこなっていく。また、掃除も徹底していく。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感があるものを掲示したり、毎月壁画作りを利用者で作成し掲示している。利用者の顔写真を貼ったり話題作りに繋がっている。また、落ち着いて生活できるように不快な音などをなくすよう努めている。	○	職員の声の大きさなど、一人ひとりが気をつけていく。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにソファを設置し自由にくつろげる空間がある。仲の良い利用者が一緒に座ったり、スタッフも交えて談笑する様子がみられる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	居室には、個々の使い慣れたものなど持ち寄りそ れぞれ個性的である。なじみのものが身近にある ことで安心感や居住空間が生まれている。	○	転倒等の危険があるものは、家族や本人と話し合 いながら解決していく。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	朝の掃除には必ず換気を行い、必要ならば日中も 換気を行っている。居室は、日中窓を空け換気し ている。また、その都度温度調節を行い快適な空 間作りに努めている。	○	一人ひとりの体感温度が異なるため、職員は配慮 しながら温度調節をおこなっていく。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	玄関は広くとってあり、室内は開放的でバリアフ リーになっている。台所は、広く流し台・調理 台・ガス台があり利用者と共に作業できる。ま た、トイレは車椅子でも入れるようになってい る。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	本人の力を活かし、職員は引き出してあげるよう 取り組んでいる。出来ることを伸ばしてあげるこ とで、本人のやる気にもつながるようにしてい る。	○	一人ひとりの出来ること出来ないことを把握し て、職員は本人の力を引き出せるよう取り組んで いく。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	中庭に自由に入出りでき天気の良い日には、お茶 を飲んだり、おしゃべりをしたりと活用してい る。	○	中庭には、花壇があるので花を植えたりと季節感 が感じられるようにしたい。

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

・外出の機会が多くあり、ランチ・遠足・モーニング・喫茶など楽しみにされているので生きがいや良い刺激になっている。・行事が多彩で、特に夏祭り・運動会に力を入れている。